

対象年度		平成31年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート											
事務事業名		不登校児童生徒支援事業						予算事業名		児童生徒自立支援事業費					
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	結城市生徒指導相談員設置規則 教育委員会規則第1号					
				10	01	03	1102	経常経費							
総合計画体系		4未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文						事業の区分	主要事業						
		4-1生きる力を育む教育環境づくり(学校教育)													
		②安心して学べる学校づくりの推進						担当課係等	学校教育課 指導課						
3不登校児童・生徒への支援体制の充実															
事業期間		継続(昭和63年度～平成32年度)													
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】							
生徒指導相談員(週3日勤務)2名を配置し、集団生活への適応促進させる。学校とは異なる場所である教育支援センターフレンド「ゆうの木」にて適応指導を行う。								教育支援センターや適応指導教室は、県内すべての市町村に設置されており、利用者は年々増加している。							
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】								【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】							
問題を抱える児童生徒の減少・相談員の質の向上								問題を抱えている児童生徒・生徒指導相談員							
【平成31年度 事業内容】								【平成32年度 事業内容】				【平成33年度 事業内容】			
生徒指導相談員(週3日勤務)2名を配置し、集団生活への適応促進させる。学校とは異なる場所である教育支援センターフレンド「ゆうの木」にて適応指導を行う。								生徒指導相談員(週3日勤務)2名を配置し、集団生活への適応促進させる。学校とは異なる場所である教育支援センターフレンド「ゆうの木」にて適応指導を行う。				生徒指導相談員(週3日勤務)2名を配置し、集団生活への適応促進させる。学校とは異なる場所である教育支援センターフレンド「ゆうの木」にて適応指導を行う。			
■事業費															
				H29年度		H30年度									
財源内訳	国庫支出金			0		0									
	県支出金			0		0									
	地方債			0		0									
	その他			0		0									
	一般財源			4,110		3,907									
歳入計(千円)				4,110		3,907									
歳出内訳	節(番号+名称)				金額(千円)		金額(千円)								
	01	報酬			2,285		2,304								
	08	報償費			1,315		1,295								
	11	需用費			428		219								
	12	役務費			82		89								
歳出計(千円)(A)				4,110		3,907									
伸び率(%)						-4.93									
備考	総合計画 104ページ 予算書 157ページ														

平成29年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H29年度	H30年度	H31年度
活動 指標	教育支援センター フレンド「ゆうの木」における相談実施件数	件	目標	2,300.00	2,300.00	2,300.00
			実績	1,957.00	0.00	0.00
	教育支援センター フレンド「ゆうの木」における来室相談件数	件	目標	190.00	190.00	190.00
			実績	190.00	0.00	0.00
成果 指標	30日以上欠席者	%	目標	2.50	2.50	2.50
			実績	3.89	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	ますます必要性・緊急性は高くなっている。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	行政の実施する事業である。
	手段の妥当性	A 妥当である	現在の方法以外に考えられない。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	コスト面では十分とはいえない。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	目的とした対象者が限られてきている。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	検討の余地がある。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	計画通り順調である。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
不登校児童生徒の解消は、即効性が得られない。長いスパンで継続的に指導していくことが解消への近道と考える。今後も、学校・家庭・専門機関との連携を密にしていきたい。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
不登校の出現率が今後ますます増加することが考えられる。市民や学校関係者からのニーズも高く、相談体制の充実が必要である。相談員の育成にも力を入れて、その専門性を高めていきたい。			

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））
☒ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 不登校児童生徒の原因が多様化され、増加している傾向にある。児童相談所等との関係機関との連携がますます重要であり、相談体制の充実が必要であるとする。
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））
☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 財政状況と可能な限り調和を図りながら進める。